

あ い さ つ

宮崎県公立小中学校教頭会

会 長 櫛 谷 裕 二

令和3年度も昨年度同様、新型コロナウイルス感染症対策に苦慮した1年間でした。特にオミクロン株が広がり始めた第6波では、その感染のスピードが早かっただけでなく、教育現場での感染者が大幅に増え、各学校での対応も大変だったことと思います。学級閉鎖や時差登校、午前中授業やオンラインによる授業、中学校では部活動の中止等、子供たちも昨年度以上に通常の学校生活を送ることができない日々が続きました。宮崎県は1月からまん延防止等重点措置の区域に指定され、現在も指定継続中ですので各学校、様々な条件下で工夫しながら学校運営を行っていることと思います。

本年度は、九州地区公立学校教頭会研究大会佐賀大会が全国公立学校教頭会研究大会も兼ねて行われました。「志を高くもち 豊かな心と未来を切り拓く力を育む 学校づくりの推進」というテーマのもと、当初は参集型の大会が予定されておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、初のオンラインによる開催となりました。この大会には、県内の教頭先生方にも多数参加していただきました。有難うございました。ミーティングアカウントを作成したり、ブレイクアウトルームに入室したりという今までに経験しなかった事務的な苦労はあったかと思いますが、遠方に出向くことなく全国各地の教頭先生方と研修を深めることができたことは、非常に有意義であったとともに、今後のコロナ禍における研修の在り方を示唆する大会になったと思います。準備や運営に携わった佐賀県教頭会事務局の先生方は、大変なご苦労があったことと思います。

宮崎県公立小中学校教頭会におきましても、理事会や評議員会並びに専門部長会等、全ての会が中止となり、県教頭会研究大会も2年連続開催することができませんでした。県内各支会の研修会も実施できない状況の中、教頭先生方の学びをどのように保証し、共有すればよいか悩まされることとなりました。このような厳しい状況の中でも可能な研究を進め、ここに研究の成果をまとめていただきました。この貴重な資料をしっかりと今後の研究と実践に役立てていただきたいと思います。

私が若い頃、先輩の先生に「我々教師は渡り鳥である。3~5年で転勤し、色々な場所に移動していく。移動したその場所で自分の足跡をどれくらい残すことができるかが勝負である」と聞かされました。自分が勤務している間に、その学校に自分の軌跡を残すために何ができるのか、何を变えることができるのかを考えさせられる毎日です。来年度も自分の軌跡を残すべく努力していきたいと思っています。

結びになりますが、厳しい状況の中、研究をまとめていただいた先生方、日頃より宮崎県教頭会の活動にご理解とご協力をいただいている宮崎県教育委員会及び各市町村教育委員会の先生方に心から感謝申し上げますとともに、今後ともご支援を賜りますようお願いいたします。